

愛 珠

想い出ずるままに (十四)



中 村 道 子

一 幼稚園教諭の資格認定を受く

昭和二十三年といっても、終戦後として数えれば、浅い年月で私達保育は保育の合間を縫うようにして、戦後の修改案の雑用に追われていた。

二期期にはいつて間もなく、大阪市教育委員会から通牒がきた。それはこの九月十五日と十六日の二日にわたって、幼稚園教諭の認定講習が行なわれることになり、保育は皆、この講習を受けねばならぬということだった。そしてこの結果、受講者全部は、修了後にレポートを提出して検閲を受け、あらためて幼稚園教諭二級の資格が得られるので、今もっている資格は全部幼稚園保育二級の仮免許だそうであった。

「それはなぜ」とか、「今ごろなんでこんなことをいつてくる

のでしょう」と、不審そうにいう人もかなりあり、「これは市教委からの通牒であって、市教委の方へどこからいつてきたのでしょうかなア」という人もあったが、とにかく講習を受けて、幼稚園教諭二級普通免許状を受けたのである。

次いで二年足らずの後、またこうした講習があつて、前と同じように受講後、レポートを提出したが、今回も職員は五人とも、幼稚園教諭一級普通免許状をもらった。これらの人たちは皆本園では一組を担当し、かつ前歴として小学校の三、四年を担当していた経験があつたから、苦もなく修了したので幸いであつた。

園長であつた私は、それから一年余の後、小学校の校長先生方の仲間にはいつて、校長講習を受けたが、学校卒業後三十年余りを経ていたから、在学当時を思い出して懐しく愉快であつた。それに「法律と道徳」とか「宗教学の任務」とか、学校外でしか受

けられなかった講演もあって楽しかった。そしてこの講習が終わって、やはり一年半ほどで、校長一級普通免許状をもらったのである。こうした同じ仲間だった校長先生の中には、顔なじみの方が多くて実際楽しかった。

二 健康は仕事に追われてなお楽し

そのころ、幼児の在籍数は増加するばかりであったし、しかも園舎が戦災をのがれて全部残っていて、その上園舎の所在が、全市的に見ても中央にあったので、教育的または公共的な会合の会場として使用せられた。他の幼稚園より雑用が多かったため、教育部の好意により、従来いた校務員に一名を増加して下さったから、男子三名と女子一名になったが、誰一人不足もいわず、雑務は大体分担していたが、それでも雑用に追われていて忙しそうであった。

けれども皆は、にこにこして助け合っていたので、私は嬉しかった。

三 計画の実施前には注意事項を再三熟慮すること

昭和二十四年十月二十九日は、関西保育大会の開催当日であった。今回は本年度の当番が神戸保育会であったから、したがって会場は神戸高等学校で開催されたのである。

私はきょうの大会を以前から楽しみに待っていた。それはこれまでの大会には、どこでも熱心に研究されて、発表せられていて、いつも何らかの収穫を得て帰ってきたが、特に神戸地方は、どここの試験でも、いつでも総体的に学力が高くて、むしろいいという噂を、以前から聞いていた。今年の大会を想像して楽しみにながら、「特に今回は大阪にも近いしするから、全職員が出席して勉強してきましょう」と話合っていた。

それで当日の保育予定は、前々日に各家庭に通知して、連絡をとっておいだから、この日は朝の会集が終わると、すぐ平常と同じように帰宅させ、職員らはそのまま国鉄を利用して遅参を覚悟で出席したのである。

私は大阪保育会の幹事に当たっていたから、開会時にはすでに出席していて、研究発表もいろいろ聞くことができるので、帰園後に伝えることを約束しておいたのである。

研究発表を聞いている時、私のそばに一人の役員らしい人がきて、「愛珠幼稚園から電話です。だいぶ急ぎらしいです」と知らされたので、隣の席にいた大阪保育会の人に席を頼み、急いで電話室にいった。

受話機を取るとすぐ原校務員とわかったので「原さんなに？」と尋ねると、「先生はきょう、組合の人にお座敷を貸すと約束しはりましたか」「いいえ!! 組合の人はそんなことをいうていま

すか」「黙ってなにもいいはりません」「私は貸す約束をしてないから帰ってもらって下さい」「それでも組合の人は、四、五人がかんてきを持ってきて、火を起こして分けてはりますねん。きようは先生らは皆神戸の保育大会へ行ってお留守ですので、私ら校務員は勝手にお貸しすることはできません。園長先生が貸すといわれたのやったら、神戸へいきはる時私らにそのことをいいはるのに、なにもいいはりませんでしたので、勝手にお貸しすることはできません。そばからおじさんらが、『あんなら、勝手に押しかけてきはったんでんな』というのと、『そんなことはぼくらは知らんけど、かんてきに火を作っといてくれといわれただけですねん、奥にいる人にそのわけをいうとくなさい』というてしらん顔をして、どんどんほかのかんてきに火を移してはりますねん。なにをいうても聞こうともせず、そ知らん顔で空吹く風ですねん、おじさんたちが、奥でちよいちよい聞いたことですが、どうやらきょうの師道顕揚の祭典が終わったら、係の人や招待された人たちがここへきて、昼食をしたり、祭典後の始末を整理せられるらしいそうです」

「ふうん!! 私ほきょうのことで組合からなにも聞いていません。組合から一言のあいさつも聞かず、また依頼も受けていません。もし私が聞いたとしたら、即座に断ります。それに知ってか知らずか、全職員の留守の間に押しかけてきて、許可も聞か

ず、組合としての大きな行事をするとは、これは家宅侵入です。管理する責任者の留守の間に、はいり込んで組合の仕事をしたことになるからなあ——」「おじさんたちも怒ってはいまして、火をこぼされたり、不始末から大事になってはと、かんてきの敷物を渡したり、灰皿を貸したりしはりました。私が電話をかけてる間に、そんな手伝いをしたりして、校務員も忙しゅうなりました」

終戦以来、新興のこうした組合や、組合みたいな団体には、以上のような形のがよくあつて、しかもそれが社会人や、一般団体より、一步も二歩も進んでいる新興団体であるかのように、大衆に率先して進んでいくもののように思い込んで、自分らを優位におき、礼儀や作法を無視して、そこに存在しているものは、自分らの仲間の人だけというような形の人が多かった。

「原さん、腹が立つやろうけれど、もうなにも思いませんな。私にそれを知らせて下さったが、私は今帰りたいが、まだ愛珠へは帰れないから、用事が少し手すきになったらほかの人に頼んで席をはずさせてもらい、早々に帰りますわ。あなたたちは残り火に気をつけて、煙草の火にも用心して、火事を起こさぬように注意して待っていてちょうだいや」と頼み、また「おじさんたちにもよくこのことをいって、あなたからも頼んでおいてちょうだい。私が留守をしてあなたたちに心配をさせて悪かったが、組合

の人がいる間に帰りますわ——」「先生も氣をつけて、早う帰ってちょうだいや」と話は切れた。

私が会場へ帰ってきた時には、さっきの研究発表はもう終わって、ほかの保育会の研究発表が始まっていた。しかし私の心中には、組合の人らの家宅侵入の無礼さに、胸はおさまらなかつたのである。そして「どうぞ愛珠に事故のないように」とひたすら心中に念じていたのである。時を得たので早速会場を辞去し、三の宮駅から大阪梅田駅に着くと、六時五分前であつた。組合の人が一人でもいてほしいと思いながら、駅の正面玄関で自動車を拾い、今橋三丁目の井池角までいいながら車に乗って、さいふを取り出し、すぐ支払えるように用意して待っていた。

そのころ、御堂筋はまだ一方通行でなかつたから、車は間もなく愛珠幼稚園に着いた。

正門はもう閉まつていて、組合の人は帰つたと想像して、私はちょっと失望したけれども、遊戯室を走るように通り抜けて、職員室にはいると、誰か一人だけ電話をかけている声がしたので、一人でもこの実状を見てもらえると思つて嬉しかつた。

職員室の様子で、組合の人は誰もいないらしいが、電話をかけている背広の人は、誰かわからないが、組合の人であつてほしいと思つた。自分が門に着いた時、いっしょに門から走つてきた原校務員に、「組合の人らは？」と尋ねると、「組合の人らは二十

分ほど前に、皆帰りはりました。それで、火の用心や戸締りなどを調べましたが、その時は組合の人も二、三人ほど、手伝うてくれはつて、ついさつき岩井さんらも帰りはりました。なあ!!秋田さん」いつの間にか秋田校務員もきていた。

「秋田さんも、原さんも、ほんとに御苦労でしたなあ。神戸にいても、いる間中、私は案じて事故が起こらぬように念じていましたで!!」と早口でいつている時、電話をかけていた背広の人の話が切れたから、私は二、三步そばへいつて、「あなたはどなたですか、組合の方ですか。無断できょうのようなことをせられますと、当方は大層迷惑をします。一言のあいさつもなく、許しも受けず、幼稚園の職員の留守の間にこられて、勝手にこうした会合をせられたそうで大層失礼だと思いました。しかし事故がなくて当方からいえば不幸中の幸いでしたが、これは全く家宅侵入だと思ひますわ。もし私が、最初にこのあいさつを聞いていたら、即座に断りましたのに。当方の事情を知つてか知らずか、留守の間に押しかけてきて、こうした仕事をなされたとは、何度もうやうですが、全く家宅侵入ですで——」

私の胸におさまらない氣持を、背広の人は察したらしく、「いわれる通り家宅侵入です。僕はきょう招待されてきた者で、組合の者ではありません」「そうですか。組合の方とは違いますか」「新聞記者です」「そうでしたか!! それは失礼しました。それ

なら、第三者として考えてみて下さい。会場に使いたければ、最初、幼稚園にさしかえの有無を問うべきだと思いますわ。

きょう私たちが神戸へいったことは、関西五市連合の、年に一回輪番で開催される保育大会の神戸保育会の当番の日でした。それだから、組合が幼稚園での会場開催の都合を問い合わせると、当然お断わりの日であったのに、それなのに一言の都合の有無を尋ねないとは、全く幼稚園を無視していると思います。それに畳の和室で、昼食だとして火を使う。剝焼をするとは、全くひどいですわ。私が怒るのは当然と思われませんか」

「お話を聞いてよくわかりました。自分はきょう招待されてきた者で、この通り案内状を持っています」私は「ちよつと拝見」とて、半紙に謄写したその案内状を見せてもらった。

「これは私が一週間前にもらったものです」といしながら渡されたが、一週間前に原稿ができていたとすれば、愛珠へはそれより以前に、会場の都合を尋ねるべきであるのに、なにもないとは全く無視していると思った。私は案内状をたたみながら返し、「あなたにいろいろお話をしてお帰り遅くしてすみませんでした。ご免なさいなあ!!」「いや!!失敬します」足音は遊戯室の方へ消えていった。

それから二人の校務員に、「きょうは皆にご苦労をかけましたな?!! 原さんも遅うまでいろいろ有難うでした!! ほんとにお

おきに。きょうは秋田さんが宿直? 皆疲れなさったやろ!! ゆっくり休んでちょうだいや、——私はそこから地下鉄で帰りますわ」といって、めいめい家路についた。

帰宅後はなにもいわず、すぐ入浴をすませて床につき、愛珠におけるきょう一日の実状を、くわしく粉飾することなく、組合の委員長に手紙で知らせ、考慮してもらいたく、構想を考えていたが、疲れていたのかいつの間にか、寝入ってしまったらしい。

翌朝は、平素より早く起床し、手早く支度すると妹のみに知らせて、愛珠幼稚園に出動した。幼稚園では秋田校務員が起きていたので、すぐ畳の部屋にはいつて、きのうの実状の一部始終を、ありのままに手紙に書き上げた。

そして朝の会集が終わるとすぐ、私は前PTA、すなわち後援会時代の会長の、内藤正剛先生のお宅を訪れて、きのうの顛末を報告してから、委員長への手紙も見てもらい、弁護士としての判断をしてもらい、もしこの問題が尾を引いて、複雑になってきた場合にはよろしくおさばき下さいと、断乎とした私の決心もいつて覚悟のほどを申して依頼した。

内藤先生は、私が願いをいい終わった時、「ふん!!」と返答をせられたから、幼稚園までの約一丁ほどの距離を、小走りのようにして帰り、持っていた今の手紙を、折返して秋田校務員に、東へ三丁ほど先の教員組合の事務所へ持参してもらった。

この日の翌々日、組合からだとして、二人の若い事務員が、私に面会だとして来園せられたが、「私は委員長先生にお手紙をしましたが、事務の先生にはいたしておりませんから、お帰りになったからそのようにお伝え下さいませ」といって帰ってもらった。それから二日の後、事務の先生がまた二人来園せられたが、最初の人たちよりも、少し年配であった。しかし前回と同様に、あいさつの後、「私は委員長先生にお目にかかりたいのですから、このことを申し上げて下さいませ」といって、なにも語らなかったのであった。

翌日の正午過ぎ、若い一人の係員がきて、「この間はすみませんでした」というから、「先日の手紙は、委員長先生にお出ししたので、すみませんが委員長先生にお越し願ひたいのでして、先生のお忙しいことはよく存じていますが、お願いしますと申して下さい」といって、やはりなにもいわなかった。

翌日原校務員が、「組合の人が二人、応接室に待っておられます」といって、職員室に走って知らせにきたから、私が応接室へいくと、組合専従の人が二人いた。「組合の方ですか」と尋ねると、「そうです」との返事であったが、二人はちょっと笑顔を作って、「委員長は所用のためちょっと出られませんが、この間はすみませんでした」と真面目にあいさつをせられたから、私も笑顔で「委員長先生にお目にかかり、お話がしたいのですからと、

帰られたらそれをお伝え下さいませんか」と再びいった。「委員長は非常に忙しいので、出にくいので私らがきましたが——ご用はなんでしょうか」

「お忙しいことでしょうが、先日お手紙でお話してありますから、ご存じと思います、さようお伝え下さいませ。せっかくお越し下さいましたが、失礼します」とあいさつをして職員室に帰った。

そしてこの日から三日経た日、午前十時ごろ、岩井校務員が「教員組合からというて、先生が三人お越しになりました」といって、知らせにきてくれたから、私が応接室にいくと、年配の先生が中央に、そして両脇には、もう少し若い、しかし相当お年を召されている中堅らしい先生が、威儀を正してすわっておられた。この間こられた人かもしれないが、顔は覚えていなかった。「お待ちせしました」といって一礼すると、中央の先生の向う側へ、私はすわった。

中央の年配の先生が、委員長であることはすぐわかったのである。それで私は委員長先生に向かって、「先生は日々お忙しいくて、ご苦労をおかけしていることはよく存じておりまして、有難うございます」と申すと、先生もなごやかにえまれ、「先日はお手紙をいただきご注意はよくわかりました。——私がすぐ参りかけたのですが、雑用に追われてつい勝手に失礼しました」

「当方もまた、再三お使いの方をお歸して、すみませんでしたが、私は先生にお目にかかって、再三お歸した失礼のおわびと、また今後このような機会には、前もって一言、当園の都合を、お聞き合わせいただきたく、お願いしたかったので。―それと申しますのは、疎開先から返ってきた、現在では得難い明治初年の教育資料が、この幼稚園にあります。それらをあわせて来年の創立七十年記念日までに、整理整頓して、我國の幼児教育の発展段階を、明らかに披瀝し、あわせて幼稚園開設当時の創設者たちの意気と誠意の真実を、この園舎の建築の中にもおりこんで語っておられます。それをあとからくる者への無言の教えとして、次々に語り伝える資料にもしたかったので、これは私一人の思いつきでなく、文部省をはじめ、幼稚園教育関係の団体でも、皆、この愛珠の内容や實際をご存じですから、私たちもこれを宝として、大切に参考にさせてもらっています。それでもし私たちが不在になることがわかっていような時には、校務員が全部留守居するようにしていたのです。」

あの日も例の通り非常時の心構えで、仕事の分担をしていたそうですので、実は前もってご使用のことがわかっていたのなら、一言おっしゃっていただきたかったと思いますが―幸いになにもなくてよかったですと感謝しました」

「中村さんすまんことでした。ばくもちょっと注意すればよか

った。あのころ仕事に追われていたので、あなたにまで心づかいをさせてすまなかったと思います」「いえ!! 会場の交渉や決定のことぐらいいは、原稿作製係の方が念を押せばいいので、先生は教育内容や制度のことなどの大きいことに、お心を使われるのですから、会場の件などは、特殊な事情のないかぎり、委員長の補佐役の仕事であって、その内容の軽重を一応見計らって事に当たらねば」「とんだ失敗もあって、―なかなかむずかしいものではないあ!!」「そうですよ」

「あの日は折あしく、昔ここを卒園して、その後もずっとわがことのように園をかばって下さる方が、この区内に引続き大きく商舗をもっておられ――いわゆる幼なじみの一人が、たまたま来園せられ、見知らぬ人々が食事中でしたので、小使さんに尋ねると驚いて引き返されたそうですが、幼稚園の職員が校務員より外に誰もいないので、非常に案じて歸られたそうです。それがよりよりに伝わって、これを聞いた人の中には、非常に不快に思っている人があるそうですから。中には由緒ある幼稚園内をあげて、他団体に貸し、食事をさせるとは不謹慎だといきまいて、一札もらわねばならぬと、いい出した人さえでかけたから、私は早く委員長先生にお目にかかり、このことをご相談したかったのです。先生! 一行でも結構ですから、すまなかったと一筆頂だいできませんでしょうか」

「中村さん、すまないがそれは許してもらいたいですね」「先生、すみませんでした!! 私と同じ組員ですから、区内の人々によく話して、この件はきょうで取消してもらいます。お忙しいのにきょうはわざわざお越しをいただき、いろいろお心づかいをかけてすみませんでした」

「それでは失礼します」委員長ら三人は帰られた。

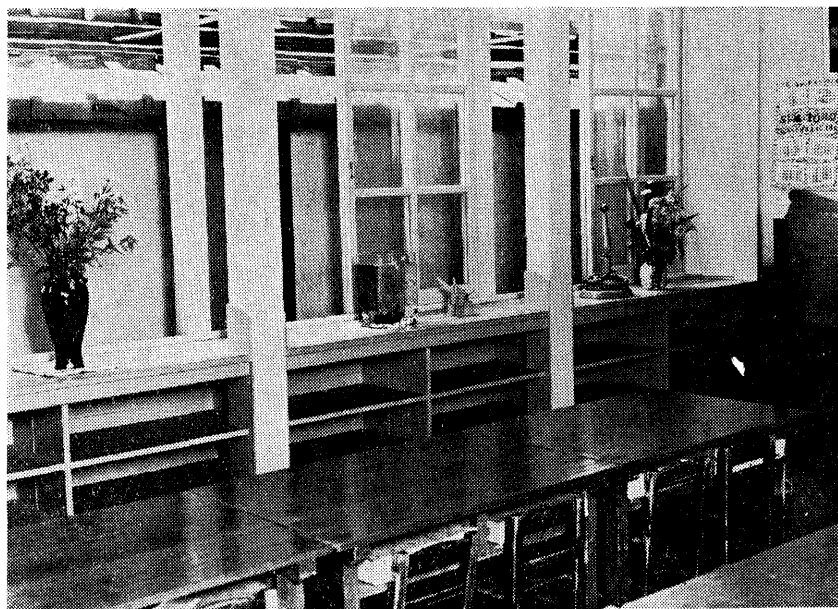
校務員や職員達も、皆はっとしたような面持であったので、私もひそかに安心したのである。

四 学校監査を受く

昭和二十四年八月九日午前十時過ぎごろ、同じ学校区である愛日小学校の教頭が来園せられ、笑いながら「先生また骨折りができましたで。きょう市役所からの連絡に、また会計監査を始めるというてきましたで。最初は愛日やそうで、愛珠が第二番目ですと。それでちょっとでもはよう知らせてあげた方が、よかろうと校長もいうから、市の通牒を受けるとすぐきましてん」「まあ!! そうでしたか、ご親切におおきに有難う。お互いに、最初やったら落度のないようにしっかりやりましょう。——けれども私は会計監査を受けたことがないから、どんなことをなさるのか心配ですわ!!」「会計監査は市長直属の仕事で、まあいえば、校園の財産調べみたいなもので、日々の学校の授業や保育と同様に、大

切な仕事です。——けれど、そんなに心配なさらんでもよろしいで。先方が保管の帳簿を皆出してほしいといえ、全部出して調査してもらい、質問があればその説明をしたらよろしいので、筋が通っていればなにも心配はいりませんで」「そうですか——」「保管の帳簿といえ、幼稚園やったら保育料の収支や、職員の俸給の支出状況、それに市費関係の全部の出納を、台帳に漏れなく記載し、それにあわせてそれらの請求書と領収書を揃えて出したらよろしいので、別に心配はいりませんで——」「細かく教えて下さったからよくわかりました」

「あッ!それから、PTA会費の収支も、皆幼稚園関係の分と同じで、台帳も請求書と領収書といっしょに綴っておいておかんといけませんで!!」「へえ!! そうですか。PTA関係もですか? へえ——よくわかりました!! いろいろご親切に教えていただいて有難うございました。それにしても先生のお時間を、たくさん取りましたなあ!!ごめんなさいなあ!! きょうはまことに有難うございました」といって別れたが、教頭は笑いながらあとでもどりして、「それからうっかりしていましたが、寄付全部は、市関係もPTA関係も書き落としないように各台帳にも記載しといて下さいな。不審なことがあったら遠慮なしに尋ねて下さい。こつちも勉強になりますからな」「おおきに有難うございました」



写真（上）

保育室

窓は一尺押し出し、腰板をはずしたなを作り、保育材料をおく。

伊達教頭は愛日小学校の方へ帰られたが、私はこの整理の段取りを考えながら、そばにいたきょうの日直者に、「大変なものが回ってきましたな!! 皆にまた骨折りを願わねばならぬから、ほんとにお気の毒やわ。早速ですけれど、このことを、皆の先生に電話連絡で、休み中ですけれどあしたは十一時に、愛珠へ必ず集合して下さるように、知らせてちょうだいな。会計監査の当番のことで、お話がありますから、必ずお越し下さるようお願いして下さいな。お願いしますわ」

なにが出るかわからないが、するだけのことは精一杯いたしましょうと、自分にいい聞かせた。